

句会を行いました

11月27日、句会を行いました。今年で6回目を数えます。低中学年と高学年に分かれ、児童1人1人が考えた俳句を鑑賞しました。そして、各自がよいと思う句を選んでその理由を発表しました。どの俳句にもそれぞれの思いが込められていました。その後、講師の藤井逸馬先生からご指導いただきました。



児童の作品の一例

どんぐりがあきにいっぱいおらてくる
すすきさんふわふわの実をかしてくれ
紅色の紅葉散らしてざわつく木
寒すずめ家族いっしょにあたたまる

ぼくは、この俳句がよいと思いました。わけは表現が工夫されていて、俳句に表された景色や作った人の気持ちが想像できたからです。



年々、俳句が上手になっていきますね。

児童のふりかえりより
同じ季節でも注目するものによっていろいろな俳句ができると思うと、おもしろかったです。また、同じ季語でも、人によって感じることや使う言葉がちがって、いろいろな俳句ができていました。これからも言葉を考えながら、たくさん俳句を作りたいです。